

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 とねの会
施設名	とねの会はすだ保育園
報告者（役職）	赤澤 和恵（園長）
住所・連絡先	埼玉県蓮田市蓮田3丁目141
	☎0488127488
	Email:kazue_akazawa@tonenokai.com

### ○タイトル（保育計画）

乳児から年長まで 運動遊びで「できた！」を育む

### ○主な助成備品

巧技台セット、パオパオバルーン、ミニトンネル（メッシュ5色組）

## 1. 保育計画策定の目的

とねの会はすだ保育園では、子どもたちが身体を動かすことが大好きになるよう意欲的に主体的に運動に取り組める環境を設定し、活動を行っています。継続的な運動経験は子どもたちの様々な育ちに繋がります。例えば、身体の動かし方を知り、けがをしにくいしなやかな身体に成長できます。また楽しく身体を動かすことで運動そのものへの意欲が向上するほか、年少～年長クラスになれば少し難しいことに挑戦する気持ちが生まれます。そのほか活動を工夫することで、友達と協力する大切さを学び、他者の気持ちに気付くなど、心の成長にも繋がります。中でも運動遊びによって得られる「できた！」の達成感・自己肯定感・自己効力感は、人生の根っこになる大切な部分だと私たちは考えています。

このように運動遊びの発展が保育内容を充実させる方法の一つと考え、第一生命財団のお力添えをいただき導入した巧技台セット（パーツを組み合わせてアスレチック状の環境を構成できる室内遊具）、パオパオバルーン、ミニトンネルを活動に取り入れました。



## 2. 具体的な実施内容

### ☆0歳児クラス

#### ワイドすべりを上り降り

歩行ができる子はバランスをとりながら歩いて上り降りし、ハイハイの子は腕と足の力で上りました。保育者が正面から声をかけ、たくさん褒めながら行い、下りが怖い子には無理にさせず応答的な関わりを心がけ実施しました。

#### ミニトンネルくぐり

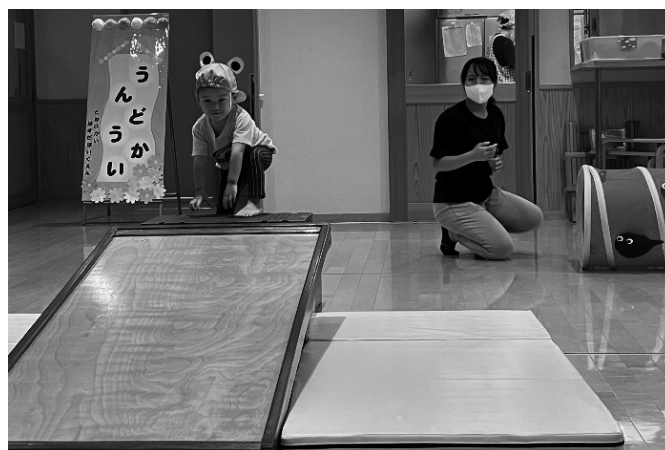
ミニトンネルをハイハイでくぐりました。メッシュタイプで内部に閉塞感が少ないからか、多くの子が怖がらずに取り組みました。



### ☆1歳児クラス

#### 巧技台とミニトンネルのサーキット

階段の昇り降り、手足を使ってお尻で滑る、といった運動機能の向上のため、巧技台（ワイドすべり）とミニトンネル（2個連結）のサーキットを行いました。1歳児クラスの園児たちは、2個連結のミニトンネルを楽しそうにハイハイで潜り抜け、巧技台を組み合わせた階段を上り広い滑り台を上手に滑り降りていました。楽しんで参加できるように、オタマジャクシからカエルになるストーリー仕立てで行いました。



### ☆2歳児クラス

#### 巧技台のサーキット

2歳児は、勾配のある坂を2足歩行で上る動きが行えるよう、①巧技台のワイドすべりを下から登り②段差からジャンプして降りる—という流れのサーキットを設定しました。はじめはジャンプというよりただ落ちるような様子でした。そこでワイドすべりの傾斜を小さくして高さを控えて、恐怖感を少なく跳べるようにしました。

また運動会では、保護者にサーキットに取り組む様子をお見せしました。



### ☆3～5歳児クラス

#### パオパオバルーンで遊戯

当園は、3～5歳児を混合させた異年齢保育を実践しています。混合クラス（計3クラス）がそれぞれバルーンを使用した遊戯に挑戦しました。ダンスの要素も取り入れることで3歳児も楽しく参加でき、かつ4・5歳児も飽きずに行える構成にしました。また新型コロナウイルスの影響で、開園以来、保護者参観無しで開催してきた運動会ですが、今回初めて参観を解禁したこともあり、みんな得意げに披露していました。



#### 巧技台を組み合わせたサーキット

3～5歳児混合クラス（3クラス）が、巧技台を組み合わせたサーキットを行いました。サーキットでは、①はしご2種類を渡る②ジャンプ台からジャンプ③跳び箱を跳ぶの3つの運動を取り入れました。3歳児はストレートのはしご、4・5歳児は太鼓橋状のはしごを使用するように、年齢や発達段階で難易度にバリエーションのある設定にしました。太鼓橋状のはしごでは頂上で身体の向きを変えるのが難しい様子でしたが、練習を経るごとに身体の使い方が上手になり、軽やかに渡れるようになっていきました。4・5歳児は飛び箱にもチャレンジしました。

### 子育て支援センター

#### ワイドすべりのサーキット遊び

園に併設している子育て支援センター（名称「とねのえんがわ」）でも、活動に巧技台セットを取り入れました。活動ではワイドすべりを下から登り、階段を降りるという簡単なサーキットを設置しました。普段家庭ではできない室内の運動遊びができ、子どもたちは夢中になって遊んでいました。参加した保護者は「こんな遊具は見たことがない。組み合わせにもいろいろなバリエーションがあってとても良いですね。また是非遊ばせたいです」と喜んでおられました。



### 3. その成果と評価

巧技台セット（パーツを組み合わせてアスレチック状の環境を構成できる室内遊具）、パオパオバルーン、ミニトンネルを活動に取り入れたことで、子どもたちが普段の生活ではできない「①動きの体験」を得られました。また、活動を通して様々な「②心の育ち」も見られました。

#### ①動きの体験

巧技台セットでは、はしごの昇り降り・平均台のような細い棒状の上を歩くなど、普段できない体の動かし方を実践でき、子どもたちの体験の幅が広がりました。はしごを使用した際は、初めは怖がる子もいましたが、恐る恐る登るところからスタートし、最後には恐怖感を持たなくなるなど、未知のものに挑戦し克服する体験ができました。また、平均台を使用した2歳児クラスでは、繰り返し行うことでバランス感覚が発達したほか、足元へ注意を向けられるようになりました。

#### ②心の発達

各学年で様々な心理面の成長が見られました。例えば1～2歳児クラスでは、気乗りしなかった子も保育者がおもちゃと組み合わせながら雰囲気づくりをし、ポジティブな声かけを行うことにより楽しんで取り組むことができました。まずやってみることの大切さが少しでも伝わったかと思います。また、サーキットの際は1種目ごとに保育者が声援を送り、ゴールした際には拍手を送りました。子どもたちも「ゴールできた」という実感が芽生え、達成感を感じられている様子でした。また2歳児は、サーキットの活動により自分の順番が来るまで待ち、友達が行っているのを応援できるようになりました。ルールを守る気持ちや人を思いやる気持ちが芽生えていました。

3～5歳児が取り組んだパオパオバルーンの遊戯では、4・5歳児が「ここに並ぶよ」と3歳児に立ち位置を教えたり、「もうちょっとだからがんばろう」と励ましたりする姿や、3歳児もそれに応えて協力し合う姿が見られました。普段から異年齢児間の能動的な関わりができるように促していましたが、お互いが協力しタイミングを合わせなければ成立しないバルーン遊戯は、子どもたちのコミュニケーションを活発にする有意義な活動となりました。

4・5歳児の飛び箱では、はじめは1人も跳べませんでしたが、練習を重ね、跳べる子が現れました。一人ができるようになると、手をつく場所や助走・踏みきりのタイミングなどを教え、励まし合いながら次々に跳べる子が増えていきました。3歳児は、飛び箱にチャレンジする上級生の姿に「来年は自分も」と憧れの眼差しを向けていました。4・5歳児は諦めずに挑戦する心、3歳児は目標を持つ向上心の芽生えが見られました。

#### 4. 今後の課題と展望

【0歳児】0歳児は発達に差が大きい為、個々の発達に合った巧技台の組み合わせを展開していく工夫をしていきたいです。

【1歳児】制限時間、安全な順路の確保という理由から、何種類もの用品を出して行うサーキットは難しいので、使用する用品を1～2種類程度にしぼり、短時間でも楽しい運動遊びを継続して行いたいです。

【2歳児～年長】難易度を調整し、もっとやりたい気持ちに寄り添えるようにしていきます。バルーンは、1歳児や2歳児でも無理なく導入ができそうなので、今後運動遊びに取り入れるよう検討します。

【子育て支援センター】0～3歳までの地域の子どもと保護者を対象としていますが、発達に差があるため、対象を分けて設定することが必要になります。やり方を工夫し、年齢や発達別に、巧技台を使用した様々なプログラムを提供していきたいです。

#### 《まとめ》

巧技台セット、パオパオバルーン、ミニトンネルの導入により、各学年・子育て支援センターでできることの選択肢が大幅に増えました。導入した道具は様々な組み合わせができるので、子どもたちの状況に合わせた活動の設定が可能です。活動の選択肢が増えたことで、職員が「どうしたらこの活動をやってみたいと思えるか」「どうしたら活動を楽しみ感じられるか」「どうしたらより達成感を実感できるか」といった活動中の子どもたちの心の動きをより注視するようになりました。子どもたちのために「何ができるのか」から、「どう工夫すればよいか」へ。保育の活動段階が1段発展したことを実感しています。

また導入後の子どもたちの反応を見ると、身体能力が向上した子もいましたが、それ以上に心理面で成長できた子が多く見られたことが顕著な成果でした。改めて活動の充実が子どもの育ちに影響するのだと実感した活動となりました。

これからも子どもたちの心身の発達のため、今回第一生命財団のお力添えをいただき導入した巧技台セット、パオパオバルーン、ミニトンネルを最大限に活用し、日々の活動をより充実させていきたいです。

以上